

1. はじめに

- 背景
 - 令和2年3月：児童数減少により大倉小が統廃合
 - 令和4年3月：跡地利用について地域住民からダム湖畔公園との一帯整備の要望書提出
- 前提条件
 - 大倉地域の活性化を図る官民協働の実施可能性
 - 指定避難所としての代替機能確保
 - 地域資源との連携、湖畔公園との一体再整備
- 業務目的
 - 大倉小跡地及び隣接するダム湖畔公園への民間活力導入の可能性や整備等の方針を検討
 - 大倉ダム及び湖畔部分も含め一体的整備を検討



2. ヒアリング調査の実施

■ 民間事業者 整備のアイデアや運営方法、参入意向等について、6者を対象にヒアリング調査を実施

A		B		C	
整備案	・天候の心配がない屋内遊戯施設 ・ジップライン、キャンプ場	整備案	・子どもたちのあそび場、自然体験 ・イベントができる半屋外スペース	整備案	・水はけ対策後にキャンプ・グランピング施設や花の植栽。研修施設
運営等	・立地条件や商圏人口から、民間投資による回収は難しく独立採算は困難	運営等	・施設収入のみの運営は困難 ・指定管理が業務委託が望ましい	運営等	・収入見込めるのは都心型公園のみ ・指定管理、繁忙期のみ飲食で収益可
D		E		F	
整備案	・キャンプ場、グランピング施設 ・地域産業と連携した物販・飲食施設	整備案	・現運営施設とすみ分けたキャンプ場 ・カヌー、SUPでの連携	整備案	・既存施設と差異化したキャンプ場
運営等	・規模、立地もよく広範囲に集客可能性 ・公設民営が望ましいが前向きに検討	運営等	・現事業で手一杯。新施設運営は困難 ・地域全体の賑わいに期待	運営等	・地域を巻き込んだカヌーやイベント、自然体験等の連携には協力可

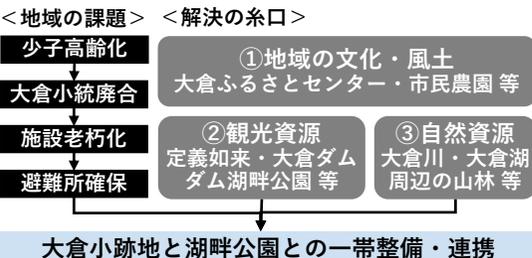
- ✓ 大倉地域の自然を生かしたキャンプ場、子どもたちのあそび場を主体に、カヌー等でダム湖利用を図る方向で検討
- ✓ 整備については、民間資金投入の可能性は低く、一定の公的資金投入が必要

■ ダム管理者 湖面利用上の注意点や連携可能性等について、大倉ダム管理事務所にヒアリング調査を実施

- ✓ おおむね自由な湖面利用を確認。眺望確保のための樹木伐採は協議が必要
- ✓ ダム管理への影響のため、ポート係留施設等の常設の施設は困難。既存施設を活用したソフト事業を検討

3. 民間活力導入に向けた方針の検討

■ 基本構想理念・基本方針の検討



<基本構想理念>

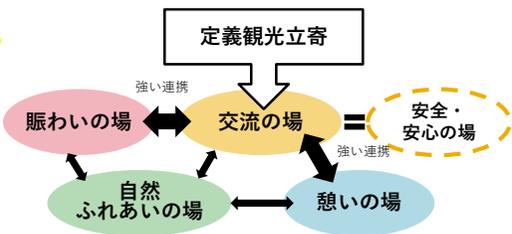
大倉地域の豊かな自然とのふれあい体験と培われた地域文化を通じた交流・連携によりかつての学び舎の賑わいと憩いの場を再创出

- <基本方針>
- ①大倉地域の賑わい・市民の憩いの場の創出
 - ②仙台近郊で本格的な自然のふれあいを体感
 - ③定義観光立寄、施設連携による多様な交流を創出
 - ④災害時における安全・安心の場を確保
 - ⑤官民双方の得意分野を活かした整備推進

■ 空間形成の方針



■ ゾーニングの検討



4. 今後の進め方のイメージ

